

酒々井町

## 郷土研究会会報

第141号

平成23年7月1日  
酒々井町郷土研究会  
広報部

## 酒々井の手習塾「青樹堂」

―石井家資料の紹介―(上)

社会教育課文化財調査員

中島丈晴

江戸時代になり生活水準が向上するなかで、庶民の間にも文字の使用や計数能力などが求められるようになり、全国各地で手習塾(註)や私塾が開かれるようになりました。

酒々井町でも八つの手習塾がしられています(『酒々井町史 通史編下』)。そのうち、幕末から明治の動乱期にかけて多くの弟子を抱えていたのが、石井平兵衛が酒々井下宿で開塾していた「青樹堂」です。昨年12月、石井家においてその関係資料が一括して「発見」されました。社会教育課文化財班では、石井家のご好意のもと、資料の整理・調査を実施し、その内容の一端について企画展示「今蘇る幕末の寺小屋「青樹堂」」

「青樹堂」石井家資料展」(中央公民館、3月23日〜4月10日)においてご紹介しました。

本レポートでは、展示内容と重複する部分もありますが、いま一度石井家資料のご紹介を兼ねながら、「青樹堂」の概要について述べてみたいと思います。

まず石井家資料の概略について触れておきましょう。整理・調査の結果、石井家資料には全94件(タイトル)120点の資料が含まれていることがわかりました。その内訳は大きく分けて、

- 一、手習塾で使われた教科書類
- 二、入塾者名簿や「寿陵」(石井平兵衛墓)など師匠と弟子に関する資料
- 三、寺社から配布された護符など信仰に関する資料、
- 四、家業である仕立屋の道具類
- 五、家政に関する資料

六、その他

「青樹堂」という視点から見た場合、一・二の資料が重要となりますが、石井家という視点から見た場合、三・四・五・六の資料も決して見逃せません。多種多様な資料が含まれている点こそ、石井家資料の魅力の一つといえるでしょう。以下では、一・二の中からいくつかの資料をご紹介することを通して、「青樹堂」の実像に迫ってみたいと思います。

石井平兵衛は当初、酒々井下宿の自宅で「青樹堂」を開塾し、後に弟子が増えると、隣接する観乗院跡地に塾舎を増築したと伝わります。ではそもそも「青樹堂」はいつごろ開塾したのでしょうか。これまでの研究では「不詳」(『千葉県教育史 巻一』632頁)や「幕末から明治にかけて私塾を開き」(『酒々井町史 通史編下』97頁)などはつきりせず、幕末頃という理解が一般的だったと思われまふ。しかし、このたびの調査で、成立時期を知りうる資料が発見されました。

それは「継志編」という、著者の熊坂磐石が父の功績を讃えるために編んだ漢詩文の表紙に書かれた次の

記載です。そこには「天保五年午二月 青樹堂所持」とあります。ここから、天保5年(1834)2月には「青樹堂」が開塾していたことが窺われます。これは、明治4年(1871)に建立された「寿陵」(石井平兵衛墓)に刻された「石井翁・小さきより書をもって郷里の児童に教う。今に四五十年・・・」(原漢文)とも見事に一致しています。

といいますのも、明治4年から四五十年前というのは文政4年(天保2年)に当たるからです。「寿陵」は平兵衛の生前に建立されたものですから、そこに記された内容は平兵衛自身も披見したものだと思われ、信憑性が高いものです。このように両者の資料が一致しているのですから、正確な年までは不明ですが、「青樹堂」はおおよそ文政4年から天保5年までの13年の間に開塾されたとみて間違いないでしょう。

天保年間には全国的に手習塾が爆発的に増えた時期にあたります。「青樹堂」もそうした学問熱が盛んとなる全国的な傾向の中で成立したのです。次に「青樹堂」で教えられていた科目について見てみましょう。この

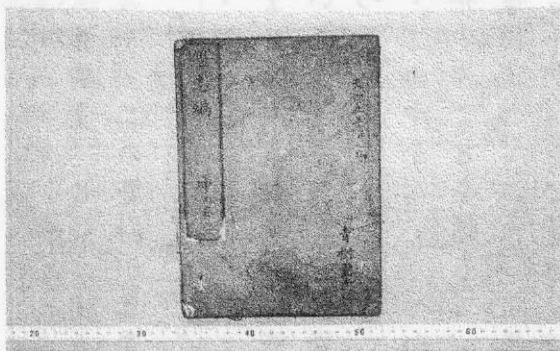
点についても、これまでは「読書」(よみかき)のみと思われていました(『千葉県教育史 巻一』632頁)。ところが残された教科書類を見ると、「青樹堂」で教えられていた科目は「読書」のみにとどまらず、①読み(庭訓往来、孟子など)、②書き(小倉百人一首、千字文など)、③算盤(大塚算法記など)、④地理(人国記)、⑤歴史(日本書紀、国史略)など、現代の国語・算数・社会に相当する科目が教えられていたことがわかりました。

当時の学習方法は、日本や中国の古典を素読(音読)することで語彙や言い回しを、詩歌のお手本を真似しながら字を覚えていきました。算数も利息の出し方や田畑の面積の求め方など実生活に即したものでした。興味深いことに石井家資料には、当時実際に使用された痕跡の残る教科書が残されています。読みに関する教科書の一つ「孟子」の中には、数えて11歳の男の子が、約1か月かけて素読を終えたことを記したメモがあります。数えて11歳といえば、今の小学4年生にあたります。意味の理解を伴わないとはいえ、教科書

は全文漢文です。学習内容の高さには驚かされます。

また、手習塾で教えられるのは、そうした知識ばかりでなく、礼儀や躰など道徳・倫理に関するものにも及びました。いわば手習塾は、社会生活を豊かに営むための「知識」と「知恵」が教えられる場であったといえましょう。こうした日々の学習環境の中で、師匠と弟子の絆が深められていったのです。(以下次号)

(註)  
一般に「寺子屋」という名称で呼ばれますが、最近では教育内容(手習・習字)に即して「手習塾」という呼び方が浸透しつつあります。



「継志編」表紙・外題。  
向かって右下に「青樹堂」の文字が見えます。

## 本佐倉城跡周辺の野草(二)

大沢 博

## 【7月～8月】

この時節になると、緑一色の雑木林に柔らかくふんわりとしたネムの花が見られる。また、田んぼの土手や林の中にも色鮮やかな夏の花がいろいろ咲くようになる。

城山の帯曲輪の一角にはトンボソウの小群落が見られ、その他、ノカシラユリ、キキョウ、オミナエシ、ミソハギなどが観察できる。また、城跡周辺の水田にはタコノアシ、オモダカ、アギナシなどが見られる。

城跡から少し離れた弁天社のあった中池付近の休耕田には、マルバルコウソウの群生があり、真っ赤な花は見事である。周辺にはミズキンバイやガガイモ、ハナイバナなども見られた。また、荒上の土手にはヤマホトトギスやツリガネニンジン、ツルニンジンなども見られる。

## 【9月～10月】

荒上の隅櫓付近にミヤマウズラの小群生を見つけた。葉脈に沿って白

い斑点模様があり、鶉(ウズラ)を連想させることから付いた名前である。また、東山馬場では、最近あまり見かけないセンナリホウズキが数株観察できた。その他、実物ではカラスウリ、スズメウリ、アケビなどが見られ、熟すとそれぞれ美しい色合いを見せてくれる。

東光寺ビヨウ周辺の田んぼの畦道には、タデ科の植物が一斉に花を付ける。サクラタデ、イヌタデ、サナエタデ、ハナタデ、ヤナギタデなどである。これらの植物は自然に秋の深まりを感じさせる花たちである。

また、ホタルの里付近では、ナンバンギセルやツルドクダミ、ツリフネソウなどが観察できる。周辺の水



オモダカ

田にはミズワラビやアメリカセンダングサ、ミゾソバなどが見られ、セツテイ山付近ではヒヨドリジョウゴやミズタマソウ、フユノハナワラビなどが観察できる。

## 【11月～12月】

城山の急斜面にカラタチバナやナンテン、マンリョウ、ヤブコウジ(十両)の赤い実が目立つ。セツテイ山の空堀で、一段と際立ったきれいな花を見つけた。キチジョウソウである。つぼみは鮮やかな赤で、ヤブラののような穂状の茎にたくさんのつぼみを付ける。花が開くと花弁は桜色した薄ピンク色になる。つぼみと組み合わせた色合いは素晴らしく、見た瞬間に感動を覚える。

初冬のこの時期は、冬を越す植物たちが、風車を並べたように地面にへばりついていて通称ロゼットと呼ばれ、城山ではハルジオン、オニタビラコ、キツネアザミ、ブタナなどが観察でき、春になると競って花を咲かせる頼もしい草花である。また、周辺の枯れ草の間には、ゼニゴケやスギゴケ、ムラサキヤネゴケ、ウメゴケなどのコケ類も観察でき、散策時の参考にしてください。



町内史跡巡りに参加して

一馬橋・墨方面一

S・A記

新緑の中、郷土研究会のメンバーからの史跡の説明は、詳細かつ示唆に富む話で勉強になり非常に興味深かった。また、初めて歩く道にも色々な野草があり、花木の名前を知ることもできた。神社等の建物は立派なものも多く、その柱に几帳面があることを知った。東光寺等、創建当時の建物は焼失しているが、石仏、石碑等昔のものが残されていることで歴史を知ることが出来る。

史跡を見て、あらためて酒々井町の歴史の深さに驚き、自然の豊かさを実感した楽しい一日でした。

名勝探訪

一東金方面一

山本孝一

JR酒々井駅から佐倉駅・成東駅を經由し東金駅に到着した。

ここ数日続いていた梅雨寒も今日は、快晴で初夏を思わせる陽気であった。今日のルートは、東金の八鶴湖の周辺に点在する東金御殿跡・本漸寺・日吉神社・最福寺を巡り往時を偲ぶ歴史探訪である。

八鶴湖は、駅から5分程歩くと到着した。見た目には、湖と言うよりは池に近い大きさであった。案内板には、当時、谷内であったこの地に人造湖を造り弁天島を造ったと記されていた。青粉対策で湖底が干され湖面に映る新緑の古木影を落とす姿は見る事が出来なかった。

東金御殿は、家康の命を受けた土井利勝が慶長18、19年にかけて東金の代官嶋田伊伯に命じ造営させたが、



向かうと堂本山寺本

今は、学校に変わわり、当時の面影は何も残っていない。本漸寺は、御殿の隣にあった。このお寺は、酒井

供養塔の由緒には、酒井定隆が土気城から東金の田間城に移り更に本漸寺の裏山にある東金城に移城した。その時、本漸寺もこの地に移された

ことが記されていた。日吉神社は、庭に咲いた花々を愛でながら進むと突然、急勾配の参道が現れた。この道は、垂直の切通しで喘ぎながら登ると坂の終りに鳥居が見えた。祭神は大山咋神おおやまいかみのかみで農事・水利・薬草等の神様です。参拝を終え、八鶴湖の傍で昼食を取り、最福寺を訪問した。

この寺は、大同2年最澄の創建と伝えられ、当時は天台宗であったが、文明11年日近上人の時、顕本法華宗に改宗し西福寺と改めたが、昭和22年に元の最福寺に戻した。この寺も本漸寺と同様、酒井定隆の檀那寺であった。家康公との親交も深く、社領30石を与えられている。境内には、社切られ与三郎のモデル、四代目伊三郎の墓が有るのには驚いた。



居前鳥居の神社日吉

行いがよかったのか、往路・復路とも座席が確保でき、ゆったりとした気持ちで探訪ができた。

史談会

『中世の佐倉』から

地域を知る

平成21年7月から15回にわたり『成田参詣記』について学んできましたが、7月からは『中世の佐倉』の講座になります。

平成12年に佐倉市が刊行した『ふるさと歴史読本 中世の佐倉』は、酒々井にも係わりのある郷土資料です。今回は、この図書から地域の出来事を学びます。

学習項目

- 中世という時代
- 平将門の乱と佐倉
- 平忠常の乱と両総平氏武士団の登場
- 市域の荘園と武士団
- 平忠澄の印東荘支配
- 鎌倉幕府の成立と千葉氏
- 白井胤時寄進の那古寺千手観音
- 宝治合戦と市域の武士団
- 六崎大福寺
- 足利尊氏の近習となった白井行胤
- 飯野常安寺に伝わった尊氏自筆の地藏菩薩画像

- 大般若経書写と鹿島川流域
- 香取造営料足納帳にみる佐倉市域
- 享徳の大乱と千葉氏の内紛
- 千葉氏の本佐倉城築城と弥富原氏の登場

登場

- 本佐倉城跡と発掘調査
- 本佐倉城跡
- 中世の焼物と物価
- 本佐倉城下の人々
- 香取秀真が見つけた鰐口
- 湊と道
- 香取海と佐倉
- 印旛沼周辺のフナト地名
- 本佐倉村の埋納銭
- 白井氏と原氏
- 里見氏と北条氏
- 白井城における二度の合戦
- 白井城跡の発掘調査
- 妙見信仰と千葉氏
- 千葉氏石塔と板碑
- 佐倉で編纂された『雲玉和歌集』
- 勝胤寺の「伝千葉介勝胤画像」
- 佐倉に残る中世文書
- 高岡大福寺遺跡「発掘された中世」
- 近世の幕開け
- 中世の記憶「江戸時代の千葉氏と旧臣」
- 市内の主な中世城館

観察メモ

シヨウブ「菖蒲」

(サトイモ科)

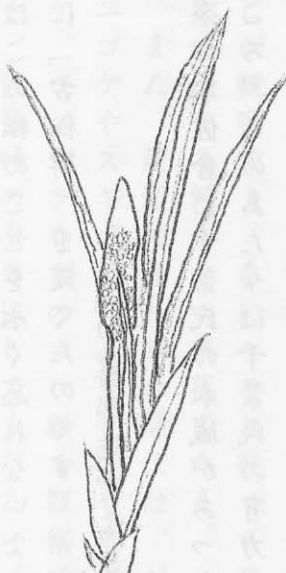
野草部

端午の節句に使われる「菖蒲」はこれで、ハナシヨウブとは別の植物です。

中国では古来より、葉の形が刀に似ている事と、邪気を祓うような爽やかな香りを持つ事から、男子にとって縁起の良い植物とされました。

ヨモギと共に軒先に吊るされたり、菖蒲湯として使われます。池や沼の縁、溝のそばなど酒々井町内でも観察できる多年草です。花期は5月頃、花序はアンスリウムと似ています。似ているものに「セキシヨウ」がありますが、こちらは常緑で芳香がない点で区別出来ます。

※図鑑により、シヨウブ科となっている場合もあります。



郷土史講座のご案内

「臼井氏と原氏」

講師 日暮冬樹氏

(佐倉市教育委員会)

8月28日 (日)

午後1時30分

中央公民館研修室

戦国時代、本佐倉城を本拠地とした千葉氏は、下総最大の勢力として領国支配を進めました。その一方で千葉一門の臼井氏や千葉氏庶家であった原氏が、次第に実力を養っていき、戦国の世に千葉氏に劣らない活躍を見せるようになります。古河公方や千葉氏宗家に影響されながら、臼井氏や原氏は、戦国時代の下総の歴史の中に深く刻まれていきました。近年本佐倉城跡や臼井城跡の発掘調査が行われるとともに、千葉県史の刊行によって新しい研究成果が紹介され、臼井氏や原氏について、その歴史像が見直されています。今回の郷土史講座では佐倉市において市史編纂、文化財担当者として活躍する文化課学芸員の日暮冬樹氏に、戦国時代の複雑な様相を背景とした臼井氏、原氏の系譜や関係など、

新しい研究動向の一端をご講演いただきたいと思えます。

酒々井の伝説

あの山のほら穴にも、落ち葉に隠れた湧き水にも、そしてこの石にも、あんな話がある話がある。平成5年に、郷土研の先輩たちがまとめた「酒々井の伝説」の中から折にふれ紹介していきます。

【お話その1】八抱えの松―古松碑

現在の給食センター付近に、むかし大きな松の木がありました。樹齢7、8百年ほどで、高さは百尺(33m)もあり、幹の太さは、大人8人が手をつないでやっと抱えられたほどの大きなものでした。その根元に「妙見さま」が祀られていましたので、御神木として大切にされていました。

その立派なことは江戸時代終わりの安政5年(1858)に発行された『成田名所図会』で偲ぶことができます。ところが天保年間(1830〜44)にこの松に雷が落ち、元気がなくなってしまうました。そして明治2年、大風が吹いた時について倒れてしまったので、村の人たち

はこの松のことを永く忘れないように「古松碑」を建てたのです。

『印旛郡誌』より

※ 本佐倉に千葉氏の本城があったころ、このあたりは千葉氏の有力な家来たちの屋敷が並んでいました。今でも酒々井小学校のプール付近は「肥前屋敷」、その前から根古谷方面へ下る急な坂を「肥前坂」、下宿青年館のあたりは「右京屋敷跡」と呼ばれています。

千葉氏の時代には、鎧兜に身をかためた侍たちが、お城へ急ぐのも見たでしょうし、江戸時代になると酒々井は成田街道の宿場として賑わったので、この松の下で一休みした旅人たちからいろいろな国の話を聞いたことでしょう。



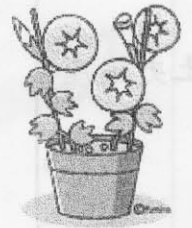
八抱えの松 (『成田名所図会』)



見学

案内

名勝探訪



加曾利貝塚・千葉市動物公園

9月13日 (火)  
9月16日 (金)  
雨天

加曾利貝塚は、縄文時代の「ムラ」の生活や文化などを解明するため、極めて貴重な存在で、国の史跡に指定されています。

貝塚の遺跡の中に加曾利貝塚博物館があり、貝塚から発掘された縄文土器・石器・動物・魚や人骨等を示し、東京湾周辺に住んでいた人々の生活の様子を分かりやすく解説しています。

千葉市動物公園は、立つレッサーパンダ「風太くん」で有名になった動物公園！といえば、おわかりでしょうか。この動物公園には、動物が観察できる5つのゾーンと、子ども動物園、動物科学館、そして遊園地「ドリームワールド」があり、童心に返って秋の一日を千葉市にある二つの観光スポットで楽しんでみませんか。

トピックス

◆：郷土研究会は、昭和52年の発足から今年で35周年を迎えます。この記念事業として「中世の酒々井を考える」を主題とする展示会を10月下旬開催に向けて、関係者一同準備を進めています。

概略を紹介しますと、①国指定史跡「本佐倉城跡」、②宿場町「酒々井」、③本佐倉城跡内の「植物」、④城跡周辺の「神社・仏閣」、⑤城主千葉氏の「人物像」、⑥城跡周辺の「石仏」となっており、どのような展示内容になるのか詳細は次号で紹介いたします。

乞うご期待。

◆：東日本大地震後3か月以上経過しましたが、津波の爪痕と被害の凄さがはつきりしてきました。重要な文化財が破損・流失されたようですが、復旧が後回しにならないことを祈るばかりです。

あとがき

幕末から明治にかけて、酒々井下宿で開塾していた寺子屋「青樹堂」についての解説を、町教育委員会社会教育課文化財班の協力を仰ぎました。過日(3月23日)4月10日、中央公民館で企画展示として「今蘇る幕末の寺子屋『青樹堂』」で紹介されましたが、当時の教育内容を理解する上で、大変貴重な資料が数多く発見されたと伺っております。今号及び次号の2回に分けて、今一度その一端を紹介いたします。

郷土研日誌

月 日	内 容	参加者
23.3.27	会報印刷	5名
3.30	会報発送	17
4.19	研究会	16
4.20	カレッジ野草観察講師派遣	2
4.21	野草観察会下見	5
4.26	野草観察会(本佐倉城跡)	25
4.28	カレッジ「酒々井の植物」講師派遣	2
5.07	史談会	21
5.17	町内史跡巡り下見	16
5.17	研究会	12
5.22	町内史跡巡り(馬橋・墨方面)	35
5.23	名勝探訪下見(東金)	4
5.23	研修部会	4
5.28	酒々井町文化協会総会出席	3
5.31	運営委員会	17
6.02	会報編集会議	6
6.04	史談会	18
6.06	名勝探訪(東金)	34
6.10	会報編集会議	6
6.16	〃	6
6.21	研究会	14
6.22	会報141号最終校正	6

## 郷土研行事案内

平成23年7月～9月

	7月	8月	9月
史談会	2日(土) 13:30 中央公民館会議室 「中世の佐倉」① 講師：高橋健一先生	休講	3日(土) 13:30 中央公民館会議室 「中世の佐倉」② 講師：高橋健一先生
郷土史講座	<b>「臼井氏と原氏」</b> 8月28日(日) 開演13:30 (開場13:00) 講師 日暮冬樹氏(佐倉市教育委員会) 会場 中央公民館 研修室(2階) 後援 酒々井町教育委員会 酒々井町文化協会		
名勝探訪	<b>「加曾利貝塚と千葉市動物公園」</b> 9月13日(火) 雨天代替日 9月16日(金) 当日問合せ 7:00～7:30 寺本 [ ] まで 集合時刻・場所 9:30 JR酒々井駅 階上改札口前 参加費 100円(交通費・入場料など各自負担) 弁当、飲み物、敷物等各自持参 コース JR酒々井駅—都賀駅—モノレール—桜木町駅…加曾利貝塚(昼食) 桜木町駅—(モノレール)—動物公園駅…千葉市動物公園…動物公園駅 —(モノレール)—都賀駅—JR酒々井駅 16:00頃帰着予定 (一部コース変更の場合あり)		
秋の野草 観察会	<b>「本佐倉城跡周辺」</b> 9月26日(月) 雨天中止 当日の問合せ 8:20～8:50 犬島 [ ] まで 集合時刻・場所 9:25 中央公民館前 参加費(資料代) 200円 弁当、飲み物、敷物等各自持参 14:00頃現地解散予定 春の観察会(前回)と同じ本佐倉城周辺のコースを観察します。 春に観察した植物がどんな姿に変化しているのでしょうか……。 また、秋は、どんな植物に出会えるのでしょうか……。 お楽しみに……。		